



雪下ろし作業等労働災害防止対策の基本

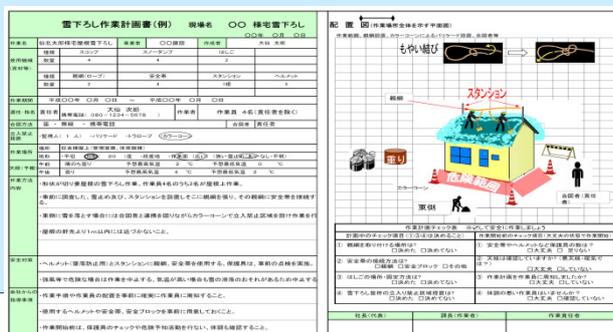
❗ 屋根の雪下ろし作業時に実施すべき事項

高さ2m以上の屋根の雪下ろし作業において、屋根の雪下ろしを行う事業主が墜落防止措置を怠り、労働者が墜落し被災する等の労働災害が発生した場合、被災した労働者を雇用する事業主の責任は重大です。

以降の墜落防止措置を参考に屋根の雪下ろし作業を行いましょう。

以下について**作業開始前にあらかじめ雪下ろし作業の計画（別添参照）**を決め準備を行ってから作業を開始しましょう。

- ①積雪状態、屋根の形状の確認
- ②落雪防止金具の有無、位置を確認
- ③昇降設備の場所及び固定の方法
- ④親綱の設置場所
- ⑤使用する安全帯や親綱等道具の確認



○作業の中止基準

気温が高い日は、雪が、滑り落ちやすくなります。屋根の雪下ろし作業、軒下での作業はしないこと！

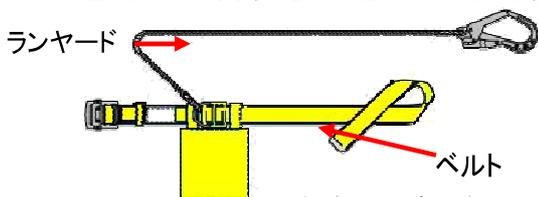
また、悪天候（風速10m/s以上、1回の降雪25cm以上等）が予想される場合も危険です。事前に作業の中止基準も定めておくこと。

屋根からの墜落防止は親綱で安全帯使用が原則！

❗ 1 安全帯

屋根など高所からの墜落防止のため、必ず安全帯を着用して作業すること

- ・安全帯は胴ベルト型とハーネス型安全帯があります。安全帯は、作業者の墜落を身体に装着したベルトとランヤードによって墜落を防ぐ保護具です。
- ・安全帯のベルトやランヤード等には構造規格が定められています。
- ・適切に装着することが大切です。



胴ベルト型安全帯

右の表示はベルト部分に表示しています

安全帯記載例

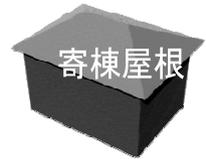
〇〇セーフティベルト
 胴ベルト型安全帯 1本つき専用
 厚生労働省「安全帯の構造規格」適合品

ハーネス型安全帯





2 親綱等

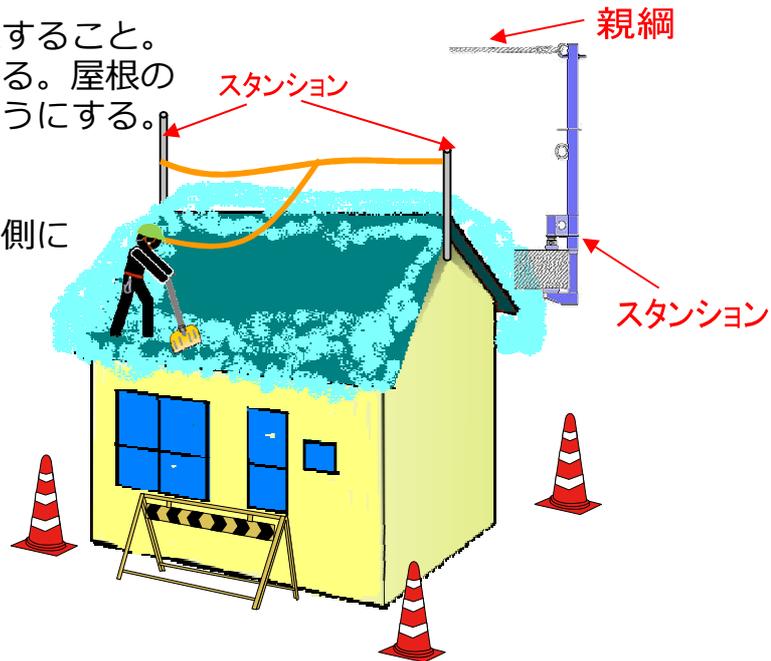


(1) 親綱の設置

- 親綱を張り、安全帯を確実に連結して作業すること。
- 親綱は、綱を固定するアンカーが必要となる。屋根の形状や雪下ろし場所の状況などから考えるようにする。

① スタンションを使用する方法

- ・ アンカーとしては、スタンションを棟の妻側に設置し図のように使用方法がある。ただし、図のような切妻屋根の場合には使えるが、寄棟屋根などにはうまく使えない場合があるので注意を。

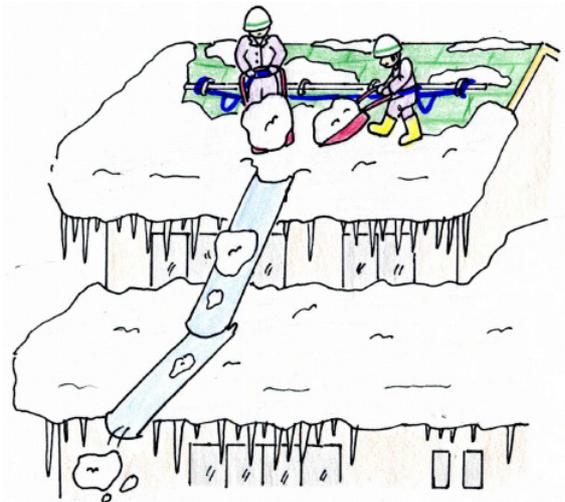


② 雪下ろしをする屋根の反対側の柱や固定物(庭の樹木や窓を開け室内の柱など)に親綱を結ぶ方法

- ・ 図のように、屋根の反対側にある、固定物や柱、樹木、重り、車輻やのタイヤ(ホイール)などをアンカー代わりに使用する方法。柱などの利用は窓を開けて室内の柱を使用する。
- ・ 寄棟屋根などでも使用ができるが、固定物が無かった場合は使えない。さらに、固定物により行動範囲に制約がある場合がある。

③ 既存の落雪防止金具(雪止め)を使用する方法

- ・ 図のように、落雪防止金具をアンカー代わりに使用する方法。
- ・ この場合は、落雪防止金具の強度を考え複数の箇所を利用する。
- ・ ただし、落雪防止用の金具の強度が不十分のため破損する恐れもあることから注意が必要。



屋根は棟(上)から軒(下)に寄せるのが原則!

- ・ 棟の上から軒先までの長さをスコップ等で下ろすと重労働であるような場合には、図のようにスノーシュート(波板を加工したもの)を使って下ろすと下まで容易に下ろせる。

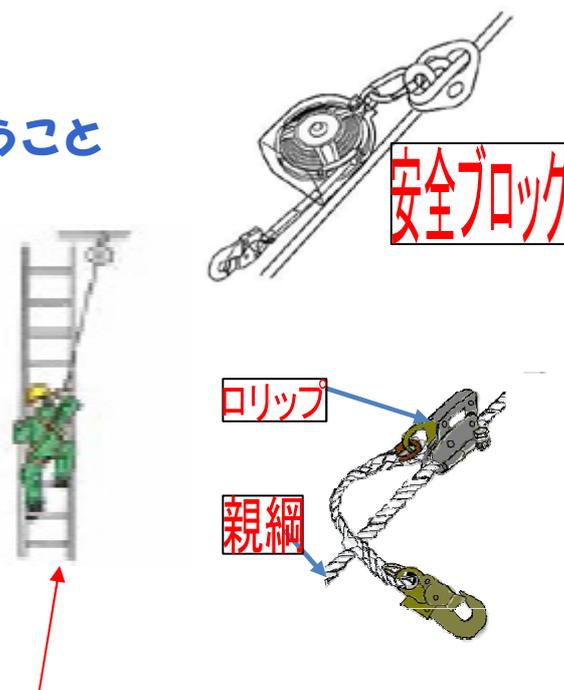
3 安全带等の取付け設備

親綱と安全帯を確実に連結して作業を行うこと

安全ブロックやロリップ等（伸縮調節器等）を利用して親綱と安全帯を確実に連結する。

・安全ブロックは、ワイヤーロープ等を自動的に巻き取る機能を持ち、作業者が墜落したとき、自動ロック装置により地上面等への衝撃を防止する装置です。

・ロリップ等（伸縮調節器等）は、親綱と安全帯とを接続し、両者の位置関係を調整するための器具です。ただし、一方向しか止まらないため使用時の方向を確認して作業することが必要です。



安全ブロックを梯子の昇降時に使用した例

高所作業においてはヘルメットの着用が原則！

4 ヘルメット（保護帽）

(1) ヘルメット着用が生死を分ける！

・ヘルメットがあれば命が救えた災害が多い。



(2) 墜落保護用のヘルメットを着用

- ・雪下ろしには墜落時保護用ヘルメット（墜落時の危険を防止するためのヘルメット。緩衝材として発泡スチロールなどが入っている。）の使用が重要。
- ・飛来落下物用ヘルメットでは、墜落時の衝撃に耐えられない。
- ・墜落時保護用と飛来落下物用の兼用もあります。



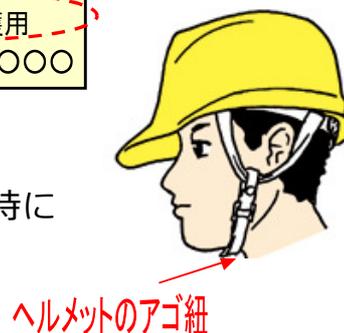
ヘルメット内側シール記載例

労(平〇〇)検
墜落時保護用
帽体材質 〇〇〇

※ 区別は、ヘルメットの内側シールに記載されている。

(3) ヘルメットのあご紐の着用の徹底

- ・作業中にじゃまになるからといってアゴ紐を外していると転落時にヘルメットが脱げ死ぬこともある。
- ・作業ではアゴ紐着用を徹底させること。



転落災害が増加。転移防止の徹底を！



5 はしご

(1) はしごは固定して使う！

- ・雪上に立てかける場合は、はしごを適正な傾斜(75度程度：はしごの説明書を参考のこと。)にして、上は屋根から60cm出すこと。
- ・はしごの転移を防止するため、上部は固定する。固定方法には、屋根にある落雪防止用金具にロープを回す方法もある。
- ・はしごの上部を固定することができない場合、または固定前のはしごを昇降する場合は、下方を人が支え転移を防止する。



(2) はしごからの作業をしない

- ・はしごの踏ざん(ステップ)は作業床ではないため、はしごのステップで作業はできない。雪庇などを除去するときは親綱・安全帯を用い墜落防止対策をしてから雪庇などを除去する。
- ・はしごをかけるためにじゃまになる雪庇は地上から落とす。

(雪庇)せつぴ



機械との接触防止、エンジン停止後の作業徹底を！



6 除雪機械

(1) ホイールローダーなどの除雪機

- ・屋根から落とした雪の運搬や寄せる等の場合は、周囲にいる作業員らとの接触災害等を防止するため監視人や誘導員を配置する。
- ・運転者が防寒着等のポケットや袖を締めないで運転をすると、操作レバーに引っ掛けてしまい急旋回して災害が発生していることから、ポケットや袖などを締めて作業する。



(2) 小型ロータリー式除雪機

- ・雪詰まりや異物が挟まったり、巻きついた場合の除去は、必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから雪かき棒を使って行うこと。
- ・この時、除雪機が損傷していないかを調べ、損傷があった場合は、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動してはならない。

